



株式会社クラレ

2023 年度決算説明会

説明者

代表取締役社長 川原 仁

代表取締役・専務執行役員 経営企画室担当 多賀 敬治

2024 年 2 月 8 日

[億円]

	2023年度	2022年度	増減
売上高	7,809	7,564	246
営業利益	755	871	△117
経常利益	690	841	△150
親会社株主に帰属する 当期純利益	424	543	△119
	参考		
円／ドル（平均）	141	132	
円／ユーロ（平均）	152	138	
国産ナフサ 千円／kl	68	75	

川原：社長の川原でございます。本日はお忙しいところ、クラレグループの決算説明会にお越しいただきまして誠にありがとうございます。

2023 年度の決算説明を始めさせていただきます。

23 年度は、欧州では金融引き締め継続による経済活動の停滞、一方中国では不動産市場の低迷などによる成長の鈍化、加えて、各地における地政学リスクの緊張などにより、年後半にかけて景気の減速傾向が強まりました。当社においても、セグメントや事業によって状況の違いはありますが、影響を受けております。

この結果、スライドで示しておりますように、売上高は前期比 246 億円増の 7,809 億円、営業利益は 117 億円減の 755 億円、当期純利益は 119 億円減の 424 億円となりました。

なお、為替および原燃料の実績は資料にお示ししてある通りです。

2023年度営業利益増減分析

kuraray



© Copyright 2024 KURARAY CO., LTD.

3

このスライドでは、営業利益の増減要因を全社のまとめとしてお示ししております。

数量につきましては、景気減速により販売数量の減少や生産調整により 245 億円の減益要因となりました。

一方で、高付加価値品へのシフトなどにより、売値・構成は 382 億円の増益要因になりました。また前期に比べて、原燃料価格が落ち着いたことなどにより、原燃料・為替は 148 億円の増益要因となっております。その他につきましては、在庫評価差額と、減価償却費等の経費増加の影響によって 402 億円の減益要因となっております。

[億円]

	2023年度	2022年度	増減
営業CF	1,293	517	776
投資CF*	△632	△720	88
フリーCF*	661	△202	864
設備投資 (受入ベース)	673	726	△53
減価償却費 (のれん償却費込み)	772	655	117
研究開発費	244	227	18

*投資CF、フリーCF：運用資金、M&A関連を除く

このスライドでは、23年度のキャッシュフローおよび主要な指標についてご説明をいたします。

営業キャッシュフローは、運転資金の減少などにより、前期比 776 億円増加し、1,293 億円となりました。投資キャッシュフローはマイナス 632 億円。その結果、フリーキャッシュフローは 661 億円となりました。

設備投資の受入ベースでは、前期比 53 億円減の 673 億円となりました。減価償却費は 117 億円増の 772 億円、研究開発費は 18 億円増の 244 億円となりました。

[億円]

	2023年12月末	2022年12月末	増減
流動資産	5,517	5,339	178
固定資産	7,028	6,876	152
資産合計	12,545	12,215	330

	2023年12月末	2022年12月末
円／ドル（期末）	142	133
円／ユーロ（期末）	157	141

このスライドでは、貸借対照表の資産の部を前期末と比較しております。

流動資産は、現預金の増加および為替の影響などにより、178 億円の増加となりました。固定資産は、円安で海外子会社の固定資産評価額が上がったことなどにより、152 億円の増加となりました。

貸借対照表②(負債と純資産の部)

kuraray

[億円]

	2023年12月末	2022年12月末	増減
流動負債	2,006	2,213	△208
固定負債	3,178	3,317	△139
負債合計	5,183	5,530	△347
純資産合計	7,362	6,685	676
負債・純資産合計	12,545	12,215	330
自己資本比率	56.9%	52.9%	4.0%

	2023年12月末	2022年12月末
円／ドル（期末）	142	133
円／ユーロ（期末）	157	141

© Copyright 2024 KURARAY CO., LTD.

6

貸借対照表の負債、純資産の部をお示ししております。

負債は、有利子負債の返済による減少などにより、347 億円の減少となりました。

純資産は、円安により為替換算調整勘定が 407 億円増えた影響もあり、676 億円の増加となりました。この結果として、自己資本比率は 22 年度末から 4 ポイント上昇し、56.9%となっております。

財務 KPI 		2022年度	2023年度	2026年度 目標
	ROIC	7.0%	6.2%	8%
	EBITDA※	1,526億円	1,526億円	1,700億円
	ROE	9.0%	6.2%	10%
	EBITDAマージン（参考）	20.2%	19.5%	23%

※営業利益+減価償却費

中期経営計画「PASSION 2026」で掲げた財務 KPI の 23 年度の実績をお示ししています。

各 KPI の 23 年の実績は、ROIC は 6.2%、EBITDA は 1,526 億円、ROE は 6.2%という結果となり、ROE につきましては株主資本コストを下回る水準となりました。26 年の目標に向けて、事業活動におけるキャッシュ創出力の向上に努めていくとともに、獲得した資金については成長分野への投資に投入し、また株主還元についても充実を図ることで、資本効率を向上させていきます。

23年度

24年度



- イソプレン タイ新拠点の安全立ち上げ
- 〈ベクトラン〉、歯科材料の生産能力増強決定
- ゴルフ場運営子会社の株式を譲渡
- 〈エパール〉アジアでの新プラント建設決定
- 光学用ポパールフィルム生産設備、水溶性ポパールフィルム ポーランド新工場、活性炭米国新設備の早期安定稼働
- コア事業への重点的な資源配分と縮小・撤退事業の見極め



- PSA^{※1}評価範囲の拡大
- 強みを発揮できる新規ビジネステーマを抽出、戦略的にリソース配分
- グローバルエンゲージメントサーベイ結果フィードバック。各部門でエンゲージメント向上施策の立案・実行
- Scope3の排出削減目標設定、SBT^{※2}認定申請
- グローバルモビリティの本格運用開始による人材の最適配置推進

※1 PSA：ポートフォリオサステナビリティアセスメント。持続可能な開発のための世界経済人会議（WBCSD）が開発した製品ポートフォリオ評価システム。化学業界向けガイドラインに準拠したクラレPSAシステムをSphera社の支援を受け構築
※2 SBT：パリ協定が定める水準と整合した、5年～15年先を目標年として企業が設定する温室効果ガス排出削減目標

このスライドでは、中期経営計画「PASSION 2026」で掲げた課題について、23 年度の実績と 24 年度のテーマについてお示ししています。

まず左側の 23 年度について。

イソプレン、タイ拠点の安全立ち上げに注力し、その結果事故なく安全に立ち上げることができました。23 年度後半については事業環境が厳しく、立ち上げ初期の設備のトラブル対応などにも苦戦しましたが、24 年度につきましては稼働率を上げ、早期の収益貢献を目指してまいります。

23 年度は、高収益事業として成長が見込まれる〈ベクトラン〉や、歯科材料の生産能力増強を決定しております。

「3つの挑戦」につきましては、「機会としてのサステナビリティ」に関連して、ポートフォリオ評価指標として導入した PSA の評価範囲を拡大いたしました。23 年度の実績につきましては現在集計中ですが、評価対象の範囲は 26 年に最終目標としていた 80%に近づく見込みです。

「ネットワーキングから始めるイノベーション」では、オートモーティブ、アグリカルチャー、ペーパー&パッケージングといった産業領域に、サステナブル原料、リサイクルポリマー材料、金属代替軽量化技術、あるいは材料といった当社が強みを発揮できる重点領域を掛け合わせて、イノベーションの機会を探ってまいりました。現在は 20 を超えるビジネステーマを特定して、戦略的にリソース配分を行っております。

また、グローバルエンゲージメントサーベイの結果を受けて、各部門でエンゲージメント向上施策を立案し、実行に移しております。

右側の 24 年度につきましては、まず成長投資としてアジアでの〈エバール〉新プラントの投資を判断いたします。また、光学用ポバールフィルムを初めとする大型設備が立ち上がりますので、これの早期安定稼働と収益貢献を目指します。

「事業ポートフォリオの高度化」につきましては、コア事業への重点的な資源配分および縮小・撤退事業の見極め、これをメリハリつけて進めてまいります。

「3つの挑戦」については、Scope3 の排出削減目標設定と、SBT（Science Based Targets）の認定申請を進めます。加えて、グローバルモビリティの本格運用を開始し、人材の最適配置を推進してまいります。

2024年度 業績予想

kuraray

	2024年度予想	2023年度	増減	[億円]
売上高	8,300	7,809	491	
営業利益	830	755	75	
経常利益	770	690	80	
親会社株主に 帰属する当期純利益	470	424	46	
設備投資(決定ベース)	1,200	599	601	
設備投資(受入ベース)	790	673	117	
減価償却費(のれん償却費込)	850	772	78	
研究開発費	270	244	26	
円／ドル (平均)	145	141		
円／ユーロ (平均)	160	152		
国産ナフサ 千円／kl	75	68		

© Copyright 2024 KURARAY CO., LTD.

9

このスライドと次のスライドで、24年度の業績予想を示しております。

経済環境につきましては、各地における地政学リスク、中国の景気低迷など不透明な状況が続くものの、インフレ圧力の緩和により金融政策の見直しが図られることで、年後半には緩やかに回復に向かうことが期待されます。

これらを踏まえ、24年度は、売上高は491億円増の8,300億円、営業利益は75億円増の830億円、当期純利益は46億円増の470億円をそれぞれ見込んでおります。なお、先ほどのスライドでご説明しました通り、これまで以上に踏み込んだ構造改革を予定しており、24年度には構造改革費用として一定程度の特別損失を織り込んでおります。

設備投資額の決定ベースは1,200億円としており、24年度に決定予定の〈エバール〉アジア新プラントが含まれております。受入ベースにつきましては、光学用ポバールフィルムの建設が進むことなどにより、790億円を見込んでいます。減価償却費については、米国での活性炭製造設備などが稼働開始することにより、78億円増の850億円。研究開発費につきましては、26億円増の270億円となる見込みです。

2024年度 通期営業利益増減分析

kuraray



© Copyright 2024 KURARAY CO., LTD.

10

24年度の営業利益につきまして、23年度対比の増減要因をお示ししております。

24年度は需要回復と、これに伴う生産数量増加により、数量が264億円の増益要因となる見込みです。一方で、価格調整の影響などで、売値・構成は128億円、原燃料価格の上昇の影響により、原燃料・為替は79億円の減益要因と見込んでおります。その他につきましては、在庫評価差額が増益要因となるものの、減価償却費、経費の増加と相殺され、結果として18億円の増益要因を見込んでおります。これらを合計して、全体では75億円の営業利益増益を見込んでおります。

株主還元
方針

総還元性向

35%以上

1株当たり配当金

40円以上／年

自社株買い

弾力的に実施

22年配当金

中間 21円
 期末 23円
 年間 44円

総還元性向 45.5%

23年配当金

中間 25円
 期末(予定) 25円
 年間(予定) 50円

39.4%

24年配当金(予定)

中間 25円
 期末 25円
 年間 50円

35.6%

中期経営計画「PASSION 2026」の株主還元方針につきましては、総還元性向 35%以上、1株当たり配当 40円以上、自社株買いにつきましては弾力的に実施するとしております。

23年度の期末配当金は、1株につき25円、中間に実施しました配当金25円と合わせた年間配当金は50円とさせていただきます。この結果、23年度の総還元性向は39.4%となります。

また、24年度の年間配当は現時点では50円と予定しておりますが、増配、自社株買いを含めて株主還元の充実を検討してまいります。

以上、私より23年度の決算の概要についてご説明させていただきました。

続きまして、代表取締役専務執行役員の多賀より、セグメントの情報についてご説明をさせていただきます。

セグメント別 売上高・営業利益

kuraray

[億円]

	2023年度		2022年度		増減	
	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益
ビニルアセテート	4,068	863	3,853	775	214	88
イソプレン	657	△109	656	43	0	△151
機能材料	1,898	103	1,741	86	157	17
繊維	619	18	669	67	△50	△49
トレーディング*	616	52	588	51	27	1
その他	457	5	521	27	△64	△22
調整額	△504	△178	△464	△178	△40	△0
合計	7,809	755	7,564	871	246	△117

© Copyright 2024 KURARAY CO., LTD.

13

多賀：セグメントの情報につきまして、私、多賀よりご説明申し上げます。

このスライドでは、各セグメントの売上高および営業利益の実績を前期との比較でお示ししています。

ビニルアセテートと機能材料は増収増益となりましたが、イソプレンは大幅な減益、繊維は減収減益となりました。

[億円]

	2022年度	2023年度	増減
売上高	3,853	4,068	214
営業利益	775	863	88

【営業利益増減分析】



ポパール樹脂	高付加価値品へのシフトを進める。一方で、欧米を中心に需要が減退し、販売数量は減少。
光学用ポパールフィルム	液晶パネルの在庫調整が一巡し、段階的に出荷が回復。
水溶性ポパールフィルム	引き続きインフレによる買い控えなどの影響を受けたものの、年後半には回復の兆しが見られる。
高機能中間膜	PVBフィルムの建築用途で欧州を中心に需要減退が見られたものの、自動車用途は堅調に推移。
〈エパール〉	自動車用途は堅調に推移したものの、食品包装用途は年後半に一時的な需要の落ち込みがあり、販売数量が減少。
主な増減要因	欧米の需要減退や在庫評価差額の影響を受けたものの、光学用ポパールフィルムや自動車用途の回復、高付加価値品へのシフトなどにより、セグメント全体では増益。

ここからは、セグメント別に事業の状況をご説明いたします。

最初はビニルアセテートセグメントです。当セグメントは前期比で増収増益となりました。各事業の販売の状況は、右上に記載のコメントをご覧ください。

営業利益は前期比で 88 億円増加しました。需要減退や生産調整の影響により、数量は 121 億円の減益要因となりました。一方で、高付加価値品へのシフトなどにより、売値・構成は 258 億円の増益要因となり、原燃料・為替も 138 億円の増益要因となりました。また、在庫評価差額などの影響を受け、その他は 187 億円の減益要因となりました。

[億円]

	2022年度	2023年度	増減
売上高	656	657	0
営業利益	43	△109	△151

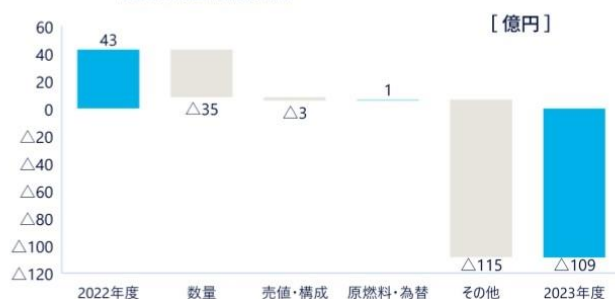
イソプレンケミカル
エラストマー

需要低迷に加え、競争激化の影響を受ける。

〈ジェネスタ〉

自動車用途は回復基調にあるものの、電気・電子用途はデバイスの需要回復が遅れる。

【営業利益増減分析】



主な増減要因

需要減退、タイ拠点の減価償却費増や定修期間延長の影響、電気・電子デバイスの需要回復遅れなどにより減益。

イソプレンセグメントです。当セグメントは前期比で売上高は横ばい、利益は大幅減となりました。各事業の販売の状況は記載のコメントをご覧ください。

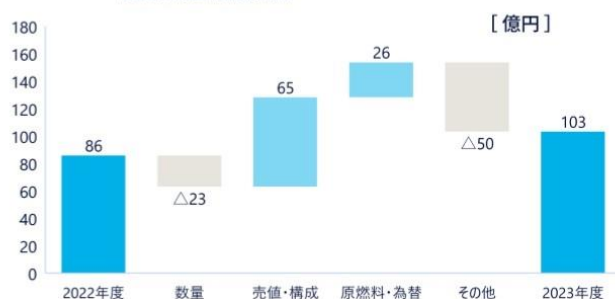
営業利益は 151 億円の減益となりました。需要の低迷が継続したことや、生産調整の影響により、数量は 35 億円の減益要因となりました。その他は、タイ拠点の減価償却費や経費が増加したことなどにより、115 億円の減益要因となりました。また、第 3 四半期にタイ拠点で定修を実施しましたが、定修期間が 1 カ月程度延びたことによる費用の増加、生産数量減の影響もございました。

[億円]

	2022年度	2023年度	増減
売上高	1,741	1,898	157
営業利益	86	103	17

メタアクリル	電気・電子用途はデバイスの需要回復の遅れに加え、原燃料価格上昇の影響を受ける。
メディカル	審美治療用歯科材料の販売が欧米を中心に好調に推移。
環境ソリューション	欧州は景気減速の影響を受けたものの北米の飲料水用途などで需要が増え、活性炭の販売が堅調に推移。

【営業利益増減分析】



主な増減要因	在庫調整、経費の増加、在庫評価差額などの影響を受けるも、販売構成良化や原燃料価格の落ち着き、円安による増益でカバー。
--------	--

機能材料セグメントは、前期比で増収増益となりました。各事業の状況はコメントの通りです。

数量は23億円の減益要因に、その他は在庫評価差額の影響や販管費など、経費の増加によって50億円の減益要因となりました。一方で、売値・構成は65億円の、原燃料・為替は26億円の増益要因となりました。その結果、営業利益は17億円の増益となりました。

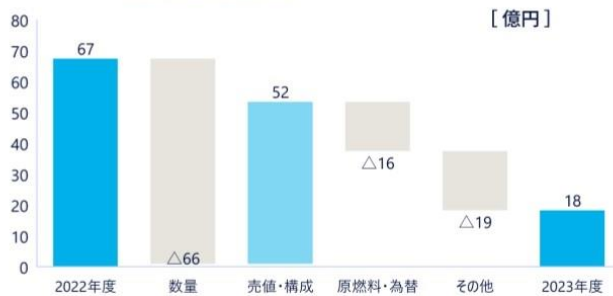
事業別では、メタアクリルは需要回復の遅れや原燃料価格上昇などの影響により、年度を通じて苦戦しましたが、メディカルおよび環境ソリューションは好調でした。

[億円]

	2022年度	2023年度	増減
売上高	669	619	△50
営業利益	67	18	△49

〈クラリーノ〉	自動車用途やスポーツ用途で回復が進んだが、ラグジュアリー用途などで需要減退の影響を受け、出荷が減少。
繊維資材	ビニロンは、欧州向けが低調でしたが、米国などで自動車用途に回復の兆しが見られる。また、〈ペクトラン〉は輸出を中心に堅調に推移。
生活資材	〈クラフレックス〉で外食産業の需要が低調。

【営業利益増減分析】



主な増減要因	価格改定を進めるも、景気減速による需要・出荷減少や原燃料価格上昇などの影響を受け減益。
--------	---

繊維セグメントです。当セグメントは、前期比減収減益となりました。各事業の状況は記載のコメントの通りです。

数量は需要低迷の影響を受け、66 億円の減益要因となりました。売値・構成は 52 億円の増益要因となったものの、原燃料価格の上昇や在庫評価差額により、原燃料・為替、およびその他が減益要因となり、セグメント全体では 49 億円の減益となりました。

セグメント別 売上高・営業利益比較

kuraray

[億円]

	2024年度予想		2023年度		増減	
	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益
ビニルアセテート	4,160	840	4,068	863	92	△23
イソプレソ	760	△90	657	△109	103	19
機能材料	2,100	135	1,898	103	202	32
繊維	720	40	619	18	101	22
トレーディング	660	55	616	52	44	3
その他	430	20	457	5	△27	15
調整額	△530	△170	△504	△178	△26	8
合計	8,300	830	7,809	755	491	75

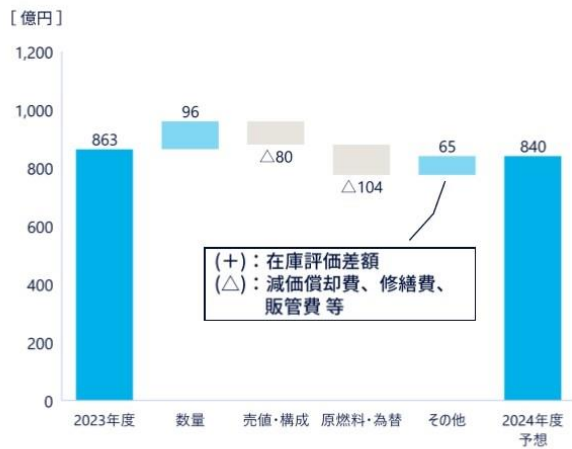
このスライドでは、各セグメントの 24 年度の売上高および営業利益の予想を 23 年度実績との比較でお示ししております。

ビニルアセテートは減益の予想となっていますが、それ以外のセグメントは増益を予想しております。

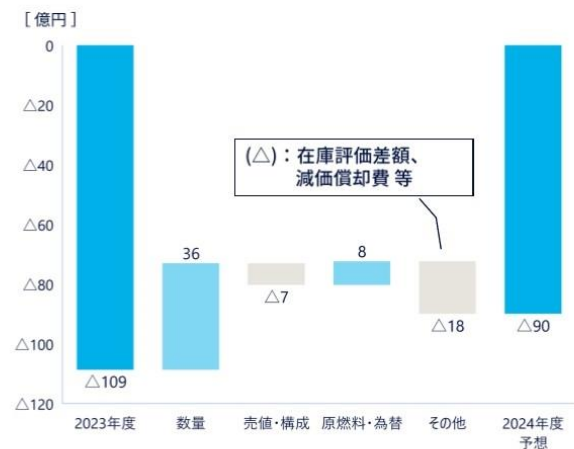
セグメント別 営業利益増減分析

kuraray

ビニルアセテートセグメント



イソプレンセグメント



© Copyright 2024 KURARAY CO., LTD.

19

このスライドでは、24年度の営業利益予想の増減要因をセグメント別にお示しています。

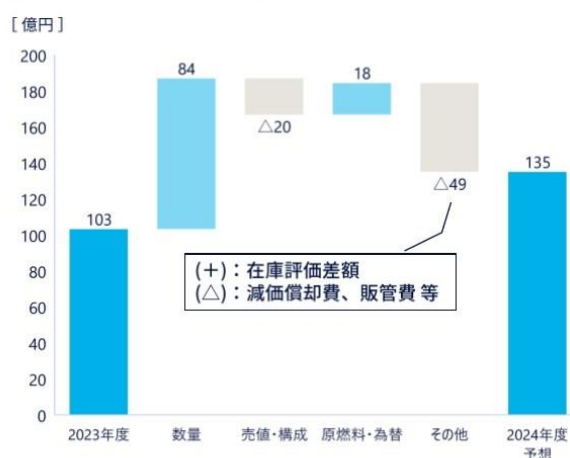
左側のビニルアセテートセグメントは、数量増による増益効果があるものの、価格改定や原燃料価格上昇が減益要因となります。その他は、在庫評価差額が増益要因となる一方で、修繕費や減価償却費等、経費の増加が減益要因となり、その他の合計では65億円の増益を見込んでおります。

右側のイソプレンセグメントは、数量が36億円の増益要因となりますが、減価償却費の増加や在庫評価差額の影響により、その他が18億円の減益要因となります。

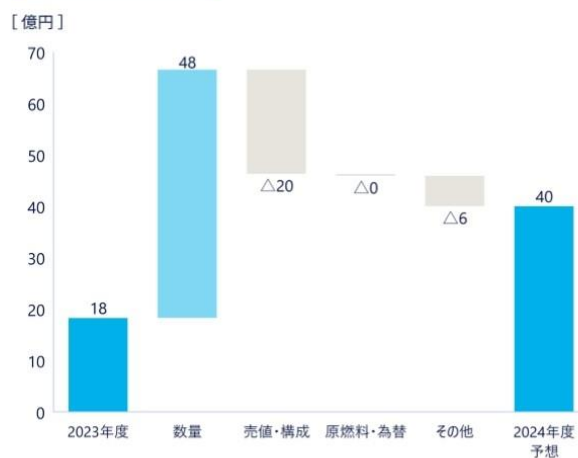
セグメント別 営業利益増減分析

kuraray

機能材料セグメント



繊維セグメント



© Copyright 2024 KURARAY CO., LTD.

20

機能材料セグメントは、活性炭の北米飲料水用途などが増えることにより、数量が84億円の増益要因となります。一方で、新たに米国で稼働する活性炭製造設備の減価償却費の増加などがあり、その他は49億円の減益要因となります。

繊維セグメントは、販売数量増により数量が48億円の増益要因となりますが、価格改定などにより、売値・構成が20億円の減益要因となります。

21 ページ目以降は、詳細計数情報となりますので、参考までにご覧ください。

以上で説明を終わります。ありがとうございました。

【参考】セグメント別 売上高・営業利益比較

kuraray

[億円]

	2024年度予想		2024年度中期経営計画		増減	
	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益
ビニルセテート	4,160	840	3,300	660	860	180
イソプレ	760	△90	750	50	10	△140
機能材料	2,100	135	1,550	110	550	25
繊維	720	40	630	60	90	△20
トレーディング	660	55	600	50	60	5
その他	430	20	470	25	△40	△5
調整額	△530	△170	△500	△155	△30	△15
合計	8,300	830	6,800	800	1,500	30

【参考】2024年度 業績予想

kuraray

[億円]

	2024年度予想			2023年度			増減		
	上期	下期	通期	上期	下期	通期	上期	下期	通期
売上高	4,000	4,300	8,300	3,810	3,999	7,809	190	301	491
営業利益	400	430	830	410	345	755	△10	85	75
経常利益	370	400	770	385	305	690	△15	95	80
親会社株主に 帰属する当期純利益	230	240	470	218	206	424	12	34	46

【参考】セグメント別 売上高予想

kuraray

[億円]

	2024年度予想			2023年度			増減		
	上期	下期	通期	上期	下期	通期	上期	下期	通期
ビニルアセテート	2,030	2,130	4,160	1,989	2,079	4,068	41	51	92
イソプレン	360	400	760	318	339	657	42	61	103
機能材料	1,000	1,100	2,100	934	964	1,898	66	136	202
繊維	340	380	720	302	317	619	38	63	101
トレーディング	310	350	660	290	326	616	20	24	44
その他	210	220	430	229	228	457	△19	△8	△27
調整額	△250	△280	△530	△251	△253	△504	1	△27	△26
合計	4,000	4,300	8,300	3,810	3,999	7,809	190	301	491

【参考】セグメント別 営業利益予想

kuraray

[億円]

	2024年度予想			2023年度			増減		
	上期	下期	通期	上期	下期	通期	上期	下期	通期
ビニルセテート	420	420	840	402	461	863	18	△41	△23
イソプレ	△60	△30	△90	△27	△82	△109	△33	52	19
機能材料	65	70	135	57	46	103	8	24	32
繊維	10	30	40	7	12	18	3	18	22
トレーディング	25	30	55	23	29	52	2	1	3
その他	10	10	20	6	△1	5	4	11	15
調整額	△70	△100	△170	△59	△120	△178	△11	20	8
合計	400	430	830	410	345	755	△10	85	75

【参考】セグメント別 売上高・営業利益 前回予想との比較

kuraray

[億円]

	2023年度		前回予想 (2023年11月9日)		増減	
	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益
ビニルシート	4,068	863	4,060	840	8	23
イソプレ	657	△109	620	△90	37	△19
機能材料	1,898	103	1,900	100	△2	3
繊維	619	18	610	25	9	△7
トレーディング	616	52	610	50	6	2
その他	457	5	420	5	37	0
調整額	△504	△178	△520	△150	16	△28
合計	7,809	755	7,700	780	109	△25

【参考】セグメント別 四半期売上高推移

kuraray

[億円]

	2022年度					2023年度				
	1Q	2Q	3Q	4Q	通期	1Q	2Q	3Q	4Q	通期
ビニルアセテート	862	993	1,002	997	3,853	978	1,011	1,039	1,040	4,068
イソブレン	154	165	168	169	656	158	160	150	188	657
機能材料	380	398	459	503	1,741	454	480	463	501	1,898
繊維	144	174	168	182	669	135	166	148	169	619
トレーディング*	140	158	141	151	588	138	152	158	168	616
その他	107	130	140	144	521	113	115	111	117	457
調整額	△110	△112	△127	△114	△464	△127	△124	△135	△118	△504
合計	1,676	1,905	1,951	2,032	7,564	1,850	1,960	1,934	2,066	7,809

【参考】セグメント別 四半期営業利益推移

kuraray

[億円]

	2022年度					2023年度				
	1Q	2Q	3Q	4Q	通期	1Q	2Q	3Q	4Q	通期
ビニルアセテート	172	164	254	186	775	178	224	235	226	863
イソプレン	27	△2	17	1	43	2	△29	△14	△68	△109
機能材料	22	11	32	21	86	35	23	24	22	103
繊維	16	22	28	2	67	2	4	11	1	18
トレーディング	13	15	11	12	51	11	12	14	14	52
その他	4	8	7	7	27	1	5	0	△1	5
調整額	△33	△58	△21	△66	△178	△16	△42	△63	△56	△178
合計	221	159	328	163	871	213	196	207	138	755